



JAきたみらい 外郭三組織

青年部・女性部・フレッシュユミズ

設立10周年記念誌

ダントツの10周年記念誌





JAきたみらい

JAきたみらい
青年部

JAきたみらい
女性部

JAきたみらい
フレッシュユミズ

JAきたみらい 外郭三組織 設立10周年記念誌



目 次



1. 組織綱領・マーク	1
2. 発刊にあたって	3
3. 発刊を祝して	7
4. 歴代部長・会長紹介	15
5. 10年のあゆみ	32
6. 支部集合写真	51
7. 外郭三組織合同視察研修	64
8. 歴代本部役員名簿	68
9. 規約・機構図	72
10. JA青年・女性の歌	88
11. 編集後記	91



JA 青年組織綱領

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。
1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。
1. われらは、自らがJAの事業運営に積極的に参画し、JA運動の先頭に立つ。
1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。
1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

JA 女性組織綱領

- 一、わたしたちは、力を合わせて、女性の権利を守り、社会的・経済的地位の向上を図ります。
- 一、わたしたちは、女性の声をJA運動に反映するために、参加・参画を進め、JA運動を実践します。
- 一、わたしたちは、女性の協同活動によって、ゆとりとふれあい・たすけあいのある、住みよい地域社会づくりを行います。

農協青年部性格五原則（鬼怒川五原則）

1. 農協運動を推進する組織である。
1. 農村青年の組織である。
1. 自主的な組織である。
1. 同志的組織である。
1. 政治的に中立の組織である。

JA 女性組織 5 原則

1. 自主的に運営する組織です。
2. こころざしを同じくする女性の組織です。
3. 仲間を増やし、年代・目的・ニーズに応じた活動を行う組織です。
4. 社会に貢献する活動を行う組織です。
5. 政治的に中立の組織です。





**J A きたみらい 外郭三組織
10周年記念誌
発刊にあたつて**

J A きたみらい青年部

**平成 26 年度 部長
実 行 委 員 長 米 森 弘**

平成 15 年のきたみらい農協発足と同時に連絡協議会を立ち上げ、既存の 8JA の青年部によって後の一本化を目指した「JA きたみらい青年部」が創設されてから、早くも 10 年の“節目”を迎えることになりました。

この度、長い足跡を記録として留めるため、一緒に歩んできた女性部・フレッシュユミズとともに「JA きたみらい外郭三組織 10 周年記念誌」を発刊する運びとなり、関係機関、諸先輩方や多くの青年部盟友・女性部員・フレッシュユミズ会員のご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

三組織を代表する 10 周年記念事業実行委員長として、お礼申し上げます。

「JA きたみらい青年部」の形ができるまでには、多くの諸先輩方の英知と努力と膨大な時間をかけた取り組みがあり、今日までこの組織が発展し続けてこられたのも、途絶えることなく受け継がれた合併当時目指した高い志によるものと思われます。ここに諸先輩方の功績を称えるとともに心から感謝を申し上げます。

現在、私たちを取り巻く環境は、日々刻々と変化しています。少子高齢化に伴う農家戸数の減少や TPP 交渉への参加など、問題は山積しています。そんななかで、私たち青年部は活動を通して一致団結しこの荒波を乗り越え、次の世代へとバトンを継がなくてはなりません。それが私たちの責務であり、途中で投げ出すようなことは絶対にしたくありません。

この目標を貫くために、私たちは改めて「JA 青年組織」の価値を認識し、今後のあるべき姿を想像し、すべての盟友が一丸となって前向きに取り組んでいくことが大切だと強く感じております。今が、私たちにとって「変革の時」です。活動にあたり新たな試みも行っていますが、今後益々広い視野を持った考え方が必要になります。これからの中JA きたみらい青年部が、諸先輩方によって築かれた功績に傷をつけることが無いよう、10 年後、20 年後の道筋を作るべくしっかりと話し合い、コミュニケーションを取り合いながら進んで行きたいと思います。

最後になりましたが、日頃より青年部活動にご協力いただいている盟友の皆様、並びに JA をはじめ関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

今後ともなお一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、発刊の挨拶とさせていただきます。





JAきたみらい外郭三組織
10周年記念誌
発刊にあたつて

JAきたみらい女性部

平成24・25・26年度 部長
副実行委員長 齊藤のり子

この度、JAきたみらい女性部が10周年を迎えることができ、諸先輩方や部員をはじめ、「魅力ある女性部作り」に協力いただいているJA役職員の皆様、各関係機関の皆様のお陰であると、感謝の気持ちで一杯でございます。

諸先輩方の多大なるご尽力のもと、8JAそれぞれの思いをひとつにまとめて作り上げたJAきたみらい女性部は、時間の経過と時代の変化に伴い生じる課題に向き合いながら、今まで歩んでまいりました。

現在は部員から要望が挙がった介護施設の設置について、地域で説明会を実施し、行政の方にもご協力いただきながら、本当に求めているものは何かを明確にし、実現できるよう少しずつ取り組んでいます。また、大きな課題はやはり部員数の減少です。毎年少しずつ仲間が減っていく状況はとても寂しく、このままではいつか女性部が無くなってしまう時が来るのでは、と心配でなりません。JAきたみらいという大きな組織から、女性の声を発信する場を無くさないよう、そしてフレッシュユミズ世代の受け皿として在り続けられるよう、みんなが楽しめる活動や入りやすいルール作りを今一度見直していくかなければと思っています。

また、外郭組織回り順で国内外農業視察研修を実施していますが、「魅力ある女性部作り」の一環として、女性部でも実施しております。平成24年度に訪れたJA紀南にて、「女性に見捨てられたJAに未来はない」と題した、当時の中家組合長の講演を拝聴しました。農家は女性の力がなくては成り立たないものだと改めて感じ、次の20周年の時にはもっと女性が積極的に経営や農協運営に参加・参画している時代になっていて欲しい。そして農業に関わる諸問題を女性の目線から考えて、きたみらい管内だけでなく食糧基地・北海道を支えていければと強く思いました。

このように私たちには多方向に課題がありますが、私が最も大切だと思っていることは、現在の8支部の横のつながりを深め、もっともっと絆を強くしていくことです。私自身、支部長・部長を務めたことで、支部の枠を越えた大切な友人がたくさんできました。農作業の合間にランチに行き懇親をこぼし合ったり、修学旅行のように枕を並べて朝までおしゃべり出来るような、女性部に入っていたからこそ出会えた仲間です。私のように女性部活動がより楽しく充実した農家生活を営む糧になり、「女性部に入っていてよかった」と一人でも多くの部員に感じてもらえることを、願ってやみません。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますことをお願い申し上げ、発刊の挨拶といたします。



JAきたみらい外郭三組織
10周年記念誌
発刊にあたつて

JAきたみらいフレッシュユミズ

平成26年度 会長 坂下あゆみ

JAきたみらいフレッシュユミズは、設立10周年を迎えました。この日を迎えたのは、設立にあたりご尽力いただいた連絡協議会役員の皆様、歴代会長をはじめとする本部役員・会員の皆様、並びに日頃よりフレミズ活動の発展・充実にご協力いただいているJA役職員・関係機関の皆様のお陰だと思っています。さらに何よりも、フレミズ活動を理解し、快く「いっておいで」と背中を押してくれる青年部・女性部を含めた家族の協力が大きな支えになっており、会員を代表し心より感謝申し上げます。

この度、会長職に就き強く感じたことは、この10年の中には「より良いフレミズ活動のためにはどうしたらよいか」という思いがたくさん詰まっていることから、代々その思いが受け継がれていることです。何事も新しく変わるときには期待と不安が入り混じるもので、8つのJAが合併したとき、「1つにまとめて活動することはできるのだろうか」「知らない支部の人たちと仲良くできるのだろうか」など、当時の会員の方は不安の方が大きかったのではないでしょうか。ですが、今はそんな不安を感じさせないくらい、8支部の交流は垣根を越え、年々深まっています。

平成21年から始まった支部合同研修会の運動会は、支部混合のチームですが、優勝の目標に向かって協力し合うことで、普段よりもぐっと距離が縮まり仲良くなれることから、「楽しい!」と好評で毎年多くの会員が参加してくれます。

また、今年初めて開催した学習会には、多くの会員が参加してくれました。今年度から託児専用の助成金をいただけすることになり、小さなお子さんのいる方でも今までより気軽に参加できるようになったことや、会員同士で「一緒に参加しよう!」と声を掛け合ってくれたことが成功の要因だったと思います。

しかし、このように多くの会員が参加してくれる行事がある一方、年々会員数の減少に歯止めがかからないという現実もあります。そこで、フレミズ未加入の方への加入促進にも力を入れようと、今年度の本部役員で話し合い、取り組んでいるところです。

さらに、今、フレミズはエリアへの再編に向けて動き出そうとしています。不安もありますが、会員同士が声を掛け合い、「フレミズって楽しい!」を次世代に繋いでいくことで乗り切ると、私は信じています。

最後になりますが、皆様へ今後ともフレミズ活動へのご理解とご協力をお願い申し上げ、発刊の挨拶とさせていただきます。



青年部・女性部・フレッシュミズ 創立10周年を祝して

きたみらい農業協同組合

代表理事組合長 西川 孝範



JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズが創立10周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

また、協議会からスタートし今日までの間、多くの皆さんの知恵と汗を結集した取り組みがあり、歴代の役員の方々をはじめ関係各位に対し、あらためて厚く感謝を申し上げます。

さて現在、農業・JAを取り巻く情勢は、さまざまな難問が山積しております。特にTPPは消費者に安全・安心な農畜産物を安定的に提供する使命を預かる我々にとっては、甚大な影響を及ぼすことは明らかであり、地域経済が崩壊しかねない危機感にさらされており、国会決議の遵守を強く訴えているところです。

農民の協同組織の発達を促進し、農業生産力の増進と農民の経済的社会的地位の向上を図り、あわせて国民経済の発展を期することを目的として誕生したのがJAであります。

昨今、「農協等に関する改革の推進」についてとりざたされておりますが、時代が変わつても組合員の自主的な相互扶助と組合員への最大の奉仕であることに、いささかも変わりはありません。

JAの使命は、組合員の営農と生活を守り、組合員が生産した安全・安心・良品質な農畜産物を消費者へ繋ぐ架け橋となること、JAの責任に基づく経営の健全化と組織基盤を確立し、地域や社会の信頼を得ることであります。

JAきたみらいにおいては、「融合に向けて歩んできた10年から、学習を重視する10年」と位置づけ、青年部・女性部・フレッシュミズの三組織との定期的な意見交換会での協議を踏まえ相互の意思疎通を図り、次代を担う農業者の確保・育成を中心とすえて、事業推進を開拓していく所存です。

結びになりますが、先人達の築いたご功績を確実に次の世代に引き継ぎ、地域農業を発展させ、10年の歩みをもとに、より一層飛躍されることをご祈念申し上げお祝いの言葉と致します。





**JAきたみらい
青年部・女性部・フレッシュミズ
10周年を祝して**

北見市長

櫻田 真人



**青年部・女性部・フレッシュミズ外郭三組織
10周年記念を祝して**

訓子府町長

菊池 一春

JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズが発足10周年を迎えられ、心よりお祝いを申し上げます。

三組織の皆様には、日頃より当市の基幹産業であります農業の振興に、多大なご尽力とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼申し上げますとともに、平成16年2月の発足以来、共に農業を志す者として、夢と誇りを持ち、地域農業への役割や地域の連携、交流など地域農業の発展に大きく貢献いただいておりますことに、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨今の農業を取り巻く情勢は大変厳しく、日豪EPAでは牛肉の関税を引き下げることで「大筋合意」をしたところであります。TPPへの波及が懸念されております。

また、本年は日本農業の大改革の重大な年であり、農地中間管理機構による農業担い手への農地の集積や米政策の見直しなどの農業改革が進められており、農業政策の大きな転換期を迎えております。

このような状況のなか、各産業分野での女性の社会進出は重要となっており、特に農業分野において、農業従事はもとより、育児など家庭生活全般を担い、農村地域の活動にも広く携わり、農業経営や地域社会において、女性が果たす役割は非常に大きく、重要な位置づけとなっております。

当市といたしましても、第2次北見市農業振興計画により、活力ある農業・農村づくりを推進しており、その原動力となるのが女性農業者であり、積極的に経営に参画できる支援体制の整備や環境づくりを進めております。今後ますます農業が発展していくためには、明日を担う若き青年農業者と情熱に満ち溢れた女性の力が大変重要であり、皆様の活躍に期待をしているところであります。

結びになりますが、三組織の皆様におかれましては、今後も地域社会のリーダーとして、北見市農業を牽引していただき、また、三組織がこの10年をステップとして、さらに20年、30年と益々ご発展されますとともに、皆様のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

きたみらい農業協同組合外郭三組織が設立10周年を迎えられましたことに心からお慶びとお祝いを申し上げます。

また、この記念すべき年に記念誌を発刊されることは大変意義深いものであり、発刊にご尽力された青年部・女性部・フレッシュミズの各役員の皆さんに深く敬意を表します。

まずもって、訓子府支部の活動では、青年部にはまつりの運営団体の一つとして多大なご協力をいただき、女性部におかれましては毎年盛況である収穫祭を、フレッシュミズにおかれましては交通安全のマスク作成・配布に継続的に取り組まれ、地域を盛り上げていただいているところです。

そういった各支部を統括する組織として、現在の外郭三組織が機能していると伺っており、8支部合同活動により部員間の連携・交流を図るため、スポーツ交流大会・運動会・学習会・視察研修等が行われ、中でもソフトボールや運動会は例年本町で開催いただき、大変ありがとうございます。

さて、TPP交渉につきましては、皆様のご協力をいただきながら、「農産物の関税維持」に関して各種運動を展開しているところですが、早期妥結に向けた動きがある一方で、交渉の長期化も懸念されており、われわれの地域を守るために今後も継続的な運動が必要と考えます。

これからは「超高齢社会」が到来します。また、日本の人口自体、すでに減少に転じており、少子化や人口の流出に歯止めがかかる、今後は「どの地域も人が少なくなる」社会に変わっていきます。

そういった中での地域の原動力は、間違いなく皆様であると思いますし、本町に限って言えば、近年は後継者が順調に就農しており、また、Uターン就農も増え心強い限りです。

やはりわが町は、農業が元気でなければ成り立ちません。今後においても、皆様方が安心して暮らせるような町づくりに努めてまいりますので、どうか皆様も「地域に根ざした活動」をこれからも念頭に置いていただき、農業への理解を求める活動にも今まで以上に力を注いでいただければと考えます。

最後になりましたが、結成10周年という節目を迎えるにあたり、これまでの歴史と教訓を踏まえ、部会員各位の生活と営農の安定をめざして、ますます充実した組織として発展されるとともに、関係の皆様のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



輝く10周年を祝して

置戸町長

井上久男

きたみらい農業協同組合の設立とともに、より広域的な組織として新たなスタートを切りました青年部・女性部・フレッシュミズの外郭三組織が10周年を迎えられました。

この間の役員をはじめ、会員の皆様のご活躍に心より敬意を表するとともにお祝いを申し上げます。

今日の農業を取り巻く情勢は、TPP問題をはじめ、目まぐるしく変化する農業政策や規制緩和の動きなど、先の見えない状況が続いている。また、地域農業を支える担い手問題や高齢化・労働力不足などは解決しなければならない大きな課題であります。

このような厳しい農業情勢のなか、役員をはじめ部会員の皆様は、次代の担い手として地域農業を牽引し、農業の継続発展に寄与していくという強い思いをもって活動をされてきました。

青年部では、研修会や先進地視察を通じて見聞を広め、より高い農業技術を習得していくなかで、多くの仲間をつくり、親睦を深められています。

女性部には、家庭の視点からも問題提起を頂いております。近年は、安心して外作業をすることのできる環境づくりの取り組みとして、介護問題について検討し、提案も頂いているとお聞きしています。

フレッシュミズは、農業未経験の方も多いと聞いていますが、様々な経験を重ねながら農業の知識を深めていくなかで、共に経営していく立場となっていかれることを期待しております。

次世代の農業経営者として、また、共に経営するパートナーとして、これから地域農業を支えていかれるのは、各団体における様々な活動を通じて成長を遂げた皆様であると確信しています。

最後になりますが、きたみらい農業協同組合、外郭三組織の皆様の益々のご活躍と更なる発展をご祈念申し上げますとともに、農業の未来を担う方々にエールを込めて、お祝いの言葉といたします。



青年部・女性部・フレッシュミズ外郭三組織 10周年記念を祝して

網走農業改良普及センター

所長 河合邦彦

JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズの設立10周年を迎えること心よりお祝い申し上げます。

平成15年2月の「JAきたみらい」の誕生に伴い、青年部・女性部・フレッシュミズが再編設立され、今年で10年を経過したことは、各組織の役員や部会員の皆様のご努力の結果であり、数多くの成果を収められてきたことに心より敬意を表します。

JAきたみらいが設立10年を経過して、販売取扱高を大きく伸ばし、合併農協として飛躍してきた背景にも、担い手である青年部・女性部・フレッシュミズの部会員の皆さんの役割が大きく貢献したものと考えております。

今日、農業・農村は、高齢化と担い手の減少が急速に進んでおり、地域農業を守っていくために、担い手の確保が重要な課題となっています。

網走農業改良普及センターとしても、担い手の確保・育成は、重要な課題であり、関係機関や指導農業士・農業士会と連携しながら、従前にも増して取り組んでまいりたいと考えております。

今後、地域の担い手確保・育成を目標とした普及活動を展開していくためには、青年部・女性部・フレッシュミズの部会員の皆様との連携が重要だと考えております。今後とも一層のご理解とご協力の程、よろしくお願ひいたします。

最後になりますが、青年部・女性部・フレッシュミズの益々の発展と部会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いのあいさつとさせて頂きます。





10周年記念誌発刊によせて

オホーツク農協青年部協議会

会長 小松友也

JAきたみらい青年部、女性部、フレッシュユミズの三組織が10周年を迎え、記念誌を発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

我々青年部はよく「青年部だからできる」という言葉を耳にします。この言葉には、若いから何も考えないで前に進める、何でも言える、何でもできる、そんな考えが含まれているのかもしれません。ですが、私たちを取り巻く今日の農業情勢は、TPP交渉や農協改革など非常に厳しい状況下に置かれているうえに、毎年のように厳しく試練を与えてくる気象状況に加え、担い手不足など問題が山積みのなか、営農を強いられている現状にあります。

この現状のなか、我々青年部は若き担い手として未来へつなぐ活動を展開しなければなりません。今、各地域で、いろいろな形で展開されている食育活動、私たちのありのままを体験してもらう農村ファームステイ、そして、このオホーツク管内で生産された農畜産物を知ってもらい、子供たちにその場でできるバター作り体験などを行っているオホーツク農業祭等を展開しております。

農政活動も農林水産省ファームステイ受入事業を通じ、意見交換や農作業を体験してもらうことで我々の現状を把握して頂いたり、道外視察研修において地元選出国会議員とポリシーブックを活用した意見交換会を行い、今の農政問題に対する要請を行っています。

上記のこととは、すべて目的があり、自分たちが今、何をしなければいけないのか、何をすべきかを考え実行しており、一人の力でできるものではありません。1,200名を超えるオホーツクの青年部員の力があつてこそ実行できると考えています。

これからも、時代の流れを的確にとらえ、「青年部だからやるべきこと」をしっかりとと考え、活動して頂きたいと思います。

最後になりますが、オホーツク管内最大の組織を武器に更に強固なJAきたみらい外郭三組織の発展と、部員皆様方のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げ、10周年記念誌発刊にあたってのお祝いの言葉といたします。



記念誌発刊に寄せて

オホーツク JA 女性協議会

会長 馬渕陽子

「JAきたみらい」青年部・女性部・フレッシュユミズ、それぞれの組織が揃って10周年を迎えたことを心からお祝い申し上げます。

貴農協は、全道でも注目の大規模合併だったと記憶しています。そのなかでそれぞれの歴史を踏まえながら連絡協議会を経て、青年部・女性部・フレッシュユミズの組織を設立された諸先輩の皆様の努力に感謝するとともに敬意を表します。

私の知る限りでは、支部(支所)の代表が全体の代表を兼ねる組織が多いなか、貴女性部の役員体制は、専従等により個々の負担軽減を図る先進的で堅実な体制であると思います。

女性はいつでも何役もの仕事をこなしているなか、最近では農業人として、経営のパートナーとしての役割も大きくなっていると感じます。それはこれからなお一層求められることだと思いますが、そこで女性部は、自分たちの仲間作りの場、学習の場、成長の場として何より生活の基礎の場として活動していきましょう。

多くの方々は、嫁いで新しい環境で、妻として、母として、農業人として何役もこなさなければなりません。「こんなに大変なのは私だけ?!」と思い悩むことが多いなか、周りに仲間がいて話をするだけで気持ちが落ち着き、同じ思いに安心します。そこで新しい知恵をもらう、フレッシュユミズはそんな役割を果たしていると考えます。

今、農業改革の真っ只中にいます。これからの農業を支える青年部。そのパートナーとしてのフレッシュユミズ、そしてそれを育ててきた女性部。みなさんの力を合わせてこれらの農業を守り、発信していく核として、それぞれの組織の今後一層の御活躍と発展を心よりお祈り申し上げます。





回想と未来

JA きたみらい青年部
連絡協議会会長 平成16年度部長 小野 俊浩

JAきたみらい青年部設立10周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。

平成15年のきたみらい農協発足に併せ、既存の8JA青年部組織が一本化すべく協議を重ね、大きな「JAきたみらい青年部」として誕生創成期に関わりを持てたことによても感慨深いものを感じます。そして何よりも多くの方々に支えられ、その土台を練り上げられたことに感謝しています。

当時を顧みると、合併という一つの目的を持ちながら集まった各組織の部長皆さんには、これまで継承してきた各事業への深い思い入れがあり、新しいルールに対する抵抗感も大きいものがあったように思われます。また自分たちのテリトリーにおいて、新しい概念や基準といったものはアレルギー反応が起こりやすく、ともすれば自己中心的思考に陥りやすくなることが往々にしてあります。私自身も、幾度となく自分の固定された物差しで、他を非難していた時期もありました。しかし、それぞれのリーダーは、置かれている現状に対して、行えるすべての事業を遂行し、少ない部員のなかで、後継者と仲間意識を育んでいたことには相違がなかったように思われます。結局、同じ立場で場所こそ違えど、思い悩みは同じということだったのでしょうか。そういった相互理解を深めるという部分に、時間がかかったのを覚えています。酒を飲み、良いことも悪いことも、理解できることも理解できないこともあります、お互い腹を割って、時には熱くなりながら討論したことが今ではいい思い出になっています。無駄な金と時間を費やした気持ちは微塵もありません。今でも当時、酒を飲み、言い合った仲間との時間は、私の貴重な財産です。

準備会から設立と足掛け2年間の部長職でしたが、きたみらい青年部として統一活動を考えるにあたり、色々なレクレーションや講演会など様々な意見が出されました。私自身「何か形の残る物」を統一活動として実施したいと思っていました。そこで、「きたみらい」のイメージを広くPRする立て看板を作製することにしました。私のハウスを作製場所にし、日替わり体制を組み、8支部全てが携わるようにしました。北見地区青年部などの研修会では見かけたことはあっても、同じ作業をすることなどありませんでしたから、日々新鮮な感覚で作業に当たったことを覚えています。今更ですが「あの時は、本当にありがとう!」と感謝の言葉を改めて述べさせていただきます。今後、部員減少などの原因により、地区組織の統合や事業の見直しといった諸問題が起きて来るでしょうが、是非とも、地域に根ざした青年部活動を守って行って欲しいと思います。やはり、新しく貴重な人材は地域から芽吹きます。

それを地域で育み、やがて大きな場所へと活躍の場を広げていくのが重要なことだと考えます。何年後かには「きたみらい」の担い手として、JAの舵取りに活躍してもらいたいものです。時間は十分にあります。決して焦ることなく青年部組織の中で広く学び、人格と人脈を築き上げてください。

結びに、こんな私と2年間も行動を共にしてくれた仲間と支えてくれた若い青年部の方々、準備会から共に悩み指南してくれたJA職員の方々に心から感謝申し上げ、記念の日に寄せる言葉と致します。

青年部に期待

JA きたみらい青年部
平成17年度部長 竹中 義博

JAきたみらい青年部が創立以来、盟友が共に手を携え、農業の発展とJA運動の前進に向けて活動を積み重ねられ、ここに10周年を迎えることに心から敬意を表します。

私は平成17年度に、初代部長である小野俊浩さんよりバトンを引き継ぎ、青年部員数350名の部長という大役を務めさせていただきました。連絡協議会設立当初から副部長として携わってはおりましたが、身の引き締まる思いであったことが今でも昨日のことのように鮮明に思い出されます。

活動にあつては、部員間の交流を深めることが最重要課題ととらえ、広く参加を募ることができる「8支部交流ソフトボール大会」を開催しました。初の試みで、手探り状態でしたが、153名と多くの盟友の参加をいただき、競技はもちろん、懇親会でも親睦を深めることができ、当初の目的を達成することができました。また、冬期の学習会では北海道糖業北見製糖工場を訪れ、今後の砂糖情勢について理解を深めました。

部長としての任期は1年間ではありましたが、大槻尚浩さん、長山正吉さんの両副部長をはじめ、多くの皆様方からご協力いただき、大変充実した1年となりました。あらためて感謝を申し上げます。

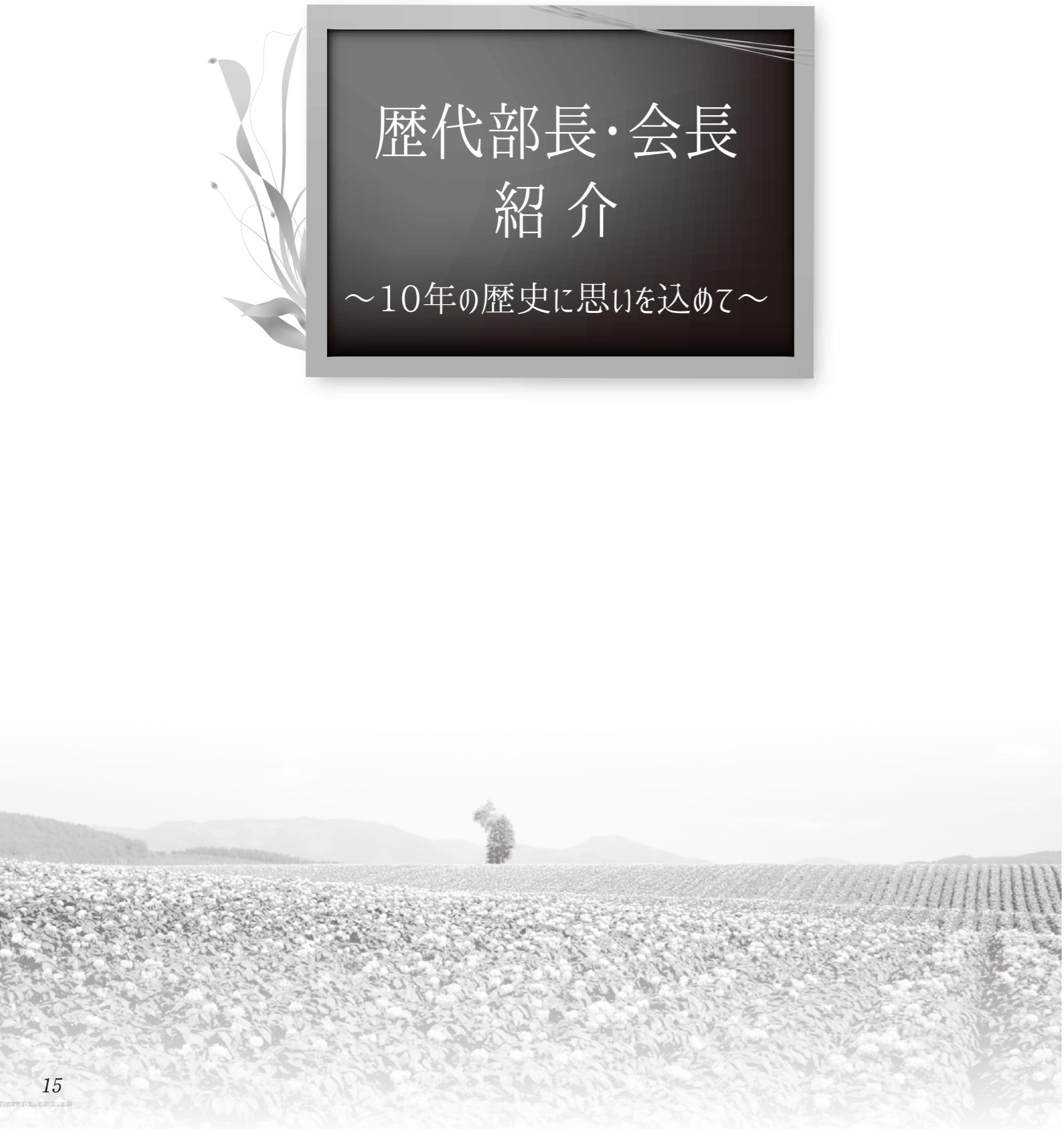
青年部は若い頭脳と若い行動力の集まりです。新しい政策や、新しい技術等、様々なことを学び、積極的に取り組み、これまで以上に幅広い活動を展開していくことを期待しています。

最後になりましたが、JAきたみらい青年部が、今後、地域農業・北海道農業・日本農業をリードしていくことを心からご祈念申し上げ、10周年のお祝いの言葉といたします。



歴代部長・会長 紹介

～10年の歴史に思いを込めて～



青年部10周年を祝して

JA きたみらい青年部
平成18年度部長 大邑 和治



この度、JAきたみらい青年部設立10周年を迎えるにあたり、心からお慶び申し上げるとともに、諸先輩、関係者並びに部員の皆様に敬意を表します。

きたみらい青年部との最初の関わりは、設立2年目に竹中義博氏が部長を務め、私が温根湯支部の支部長として、本部役員の一員となった時からです。当時の私は32歳と若く、酒席では先輩の皆さんにご迷惑をかけたり、あるいはいろいろな部分で助言を賜りましたが、今では懐かしい一つの思い出として残っています。

平成18年度の役員を決める際、竹中部長から部長に指名された時は大変驚き、どう返事してよいのか困ったことを昨日のように覚えています。年齢的には、当時の役員の中でも中間くらいでしたが、設立当初から青年部事務局を担当してくれた堀さんが、継続して事務局を担当することが部長を引き受けた要因の一つでもあります。

当時の青年部員数は344名の大所帯で、前年から始めた8支部統一活動「ソフトボール大会」(雨天でドッジボールに変更)終了後に開かれた懇親会は賑やかに行われ、さらには学習会なども積極的に開くことができました。

このようななか、私が一番不安に感じたのが、JAきたみらいの合併3周年を記念して開かれた農業祭でした。当青年部も実行委員会の一員として協力し、青年部支部対抗の「トラクター綱引き大会」を企画し、農業祭を盛り上げる一端を担いました。祭りも無事終了したとき、参加した部員とともに喜び合い、これを機に役員同士の協調性が一段と高まりました。また、実行委員会の一員でもあった女性部やフレミズの役員の皆さんと交流が図られ、楽しい経験を得ることができました。部長という重責を経験したくさんの貴重な体験や大勢の仲間と出会えたことが自分の財産となりました。現在でも、JA総代会や各種講習会などで当時の仲間と顔を合わせたびに、近況報告や飲み会の約束をしたりするなど親しく交流を続けており、部長を引き受けた本当に良かったと思っています。

最後になりますが、きたみらい青年部が部員結束のもとで一層飛躍されることを願い、お祝いの言葉と致します。

設立10周年に寄せて

JA きたみらい青年部
平成19年度部長 井上 一味



JAきたみらい青年部の設立10周年と、1年1年積み重ねてきた歴史を編纂した記念誌発刊、誠におめでとうございます。改めて敬意と賛辞を贈ります。

私が部長を務めた平成19年度は、青年部が設立から4年目を迎え、大きな方向性は出来上がったということもあり、部員皆様の協力のもとある程度スムーズな運営ができたように思えます。

当時は341名の部員にも恵まれ、11名の役員体制で4回の役員会のもと、8支部統一活動として「交流ソフトボール大会」を146名の参加で行い、冬期は部員学習会としてバイオエタノールの勉強を行いました。

また相内のアピール看板の環境整備や、当時支部単位が多かった国内外研修についても全部員へのアンケートを集計し、今後の方向性を皆様と協議した記憶があります。

現在、JAきたみらい全体もセンター構想のもと、組織の統合が進んでおります。

若い世代から地域を越え、「きたみらい」として1つになり、これから農業情勢や国際情勢に負けない基盤を築き、青年部組織としての広い交流と仲間づくりで更なる充実した活動のなかで、JAきたみらい青年部が益々発展されますことを強く願い、簡単ではありますがあなたがJA設立10周年に寄せる言葉とさせていただきます。

青年部だからこそ

JA きたみらい青年部
平成20年度部長 田中 雄二郎



JAきたみらい青年部が設立10周年を迎えたことに、心からお祝い申し上げます。

私は、JAきたみらい青年部が設立して中間地点の平成20年度に部長に選任されました。ちょうど青年部活動の見直しを図る時期でした。

当初は責任ある立場ゆえ、極度に緊張しつつ精一杯青年部活動に取り組みました。しかし、後半になると肩の力も抜けて広く周りを見られるようになりました。

そのようななか、「青年部にしか出来ないこと」「するべきこと」がたくさんあることに気付きました。そのうちの思い出深いのが、平成21年度に行われた青年部単独の「オーストラリア農業視察研修」でした。

20年度当時は、日豪EPA(経済連携協定)交渉など、自由化を巡る貿易交渉の緊張が高まりつつあるなか、地域農業及びJA運動の発展につなげることを狙いに、本部役員が中心となって「海外農業視察研修検討委員会」を設けました。

視察先や実施日、実施要領の制定、参集範囲などを中心に会議や意見交換、さらにJAの「農業パートナー・後継者研修に関する助成」の適用も見出し、21年度の青年部執行部へ引き継ぎました。私も「青年部員の今しか行けない」と考え、10名の部員とともに参加させていただきました。7日間の視察研修は、普段は体験できない日本との農業・文化の違いや、オーストラリア独自の先進的な農業経営などを学ぶことができ、農業に対する視野が広がった貴重な体験となりました。

今後においても青年部の皆さんにも、視察研修など青年部活動に積極的に参加していただき、JAきたみらい青年部がより発展する糧にし、更なるご発展をご祈念申し上げ、10周年のお祝いの言葉と致します。

成長させてくれた1年

JA きたみらい青年部
平成21年度部長 村上 孝幸



JAきたみらい青年部が平成16年2月に誕生し、この度、節目の設立10周年を迎えたことに対しまして、心からお祝い申し上げます。また、1年1年の歴史を積み重ねてきた役員並びに部員皆様のご苦労に、改めて敬意を表します。

私は、平成21年度の青年部第5回通常総代会において部長に選任されました。本部役員11名の中で1番下だったこともあり、内心は不安とプレッシャーがいっぱいのなか、上野雅美さん、本條康浩さんの両副部長にいつも助けられ、部長という大役を果たすことが出来たと感謝しています。

この年から、新たな事業が2つ取り組みました。その1つは、きたみらい青年部単独の海外農業視察研修でした。この事業は、地域農業の活性化とJA運動の発展向上を目指し、前年度役員の皆さんが練りに練って実現となったものです。11名の部員が参加し、視察先はオーストラリアでした。私は残念ながら参加することは出来ませんでしたが、参加した部員からは「農業に対する視野が広がった」、「貴重な体験を得た」などの声が寄せられました。また、この事業の実施にあたっては、JAきたみらいが制定したパートナーと後継者に対して研修助成をしていただいたことに、深く感謝している次第です。

2つ目は、全ての農作業も終えた12月に行われた外郭三組織合同視察研修です。この事業は「組織リーダー育成・体制強化」を目的に、JAの第3次地域農業振興方策に基づいて実施されたものです。普段、交流する機会が少ない女性部とフレミズの皆さんと、若い手組織としてのるべき姿を見つめ直す大きな切っ掛けとなりましたが、現在も継続されていることに喜びを感じています。

部長という大役を務めた1年間は、大切な友人にも出会え、いろいろなことを学び、自分を大きく成長させてくれました。

最后になりましたが、JAきたみらい青年部の益々のご発展をご祈念し、お祝いの言葉と致します。

自らの力で得る努力を

JA きたみらい青年部
平成22年度部長 長山 和弘



JAきたみらい青年部が設立10周年を迎えることを、心よりお祝い申し上げます。
今、私が青年部の部長を務めた平成22年度を振り返ると、宮崎県を中心に発生した「口蹄疫」の蔓延防止に万全を期するため、8支部交流ソフトボール大会と農林水産省職員ファームステイ事業の中止、さらには国内農業視察研修先の変更などを余儀なくされた時であったかと思い起されます。

このような環境のなか、当時の本部役員の皆さんには大変ご苦労をお掛けしましたが、私自身、広域青年部長として責務を全うする上で、支部間を横断する部員のつながりを深めることに心掛けてきました。

支部長時代に、「JAきたみらい青年部」とは言え、組織合併の本来の意義が薄になり、部員個々の意識改革が必要だと強く感じました。

その打開策の一つとして、本部役員間の一体化を最優先とし、会議終了後には“魔法の力水”を借り、コミュニケーションを積極的に図りました。当時の仲間とは今でも強い絆で結ばれ、ハ木沼朋紀さん、井上貴博さんの両副部長には日々迷惑を掛けましたが、お互い切磋琢磨する良きライバルという大きな存在となっています。

今後とも多くのことを学び、また多くの仲間を作ることが青年部活動の最大のメリットですが、部員一人ひとり、自らの力で得る努力を行わなければ、そこには何も生まれません。是非とも、青年部活動に積極的に参画し、有意義なものにしていただきたいと切に願う次第です。

最後になりますが、10周年を一つの契機とされまして、今後の更なる発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

参加することが第一歩

JA きたみらい青年部
平成23年度部長 中村 圭一



JAきたみらい青年部設立10周年、誠におめでとうございます。
平成16年2月に、8JA青年部が一つになって設立以来、一步ずつ前進させ、歴史を積み重ねてこられた歴代役員並びに部員の皆様に、深く敬意を表します。

私が青年部長を務めさせていただいた平成23年度は、今なお傷の癒えない東日本大震災が発生しました。自然の恐ろしさを改めて思い知ったところに6月10日、11日の両日に発生した降雹と集中豪雨により、きたみらい管内でも3150戸の被害を受け、玉葱を中心に430戸が廃耕、我が家も玉葱の全面積を廃耕した辛い思い出の残る年でした。

第7回の通常総代会で承認された活動をはじめ、JAびほろ青年部と合同で開催した農水省職員ファームステイ事業、パートナー対策事業の一環として取り組んだ「女性との交流パーティー」、さらに道農青協とともに農業青年としての問題点や不満(希望)をまとめ、形にしたポリシーブックの作成など、初事業を行った挑戦と苦労の多い年でありました。石見啓伸さん、奥山拓博さん両副部長をはじめ、本部役員の協力と知恵を借りて全事業を執行できることに感謝しております。

部長としての任期は1年でしたが、悩みもやりがいも多く非常に充実した1年であり、改めて仲間の絆の素晴らしさを知りました。このように、何かを得られる組織活動に部員皆さんも積極的に参加し、これから約20年、30年と末永くご発展することに寄与し、JAきたみらい青年部の益々の飛躍をご祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

組織検討会の発足

JA きたみらい青年部
平成24年度部長 佐藤 正人



JAきたみらい青年部の設立10周年を迎えたことに對し、心よりお祝い申し上げます。
私は平成24年度において、きたみらい青年部長という大役を務めさせていただきましたが、様々な貴重な体験をさせていただきました。

当時を振り返ってみると、近年続いている異常気象がこの年にも当たり、長雨、降雹など1年間通して天候不順となり大変苦労しました。また農政においても、農業はもちろんのこと、国を揺るがすTPP交渉参加についても問題となっていました。24年度青年部事業においては、各種学習会・交流会、農協事業への参加、そしてオホツクJA青年部協議会、北海道JA青年部協議会の各種事業にも積極的に参加してまいりました。その中でも、年々きたみらい青年部部員数が減少し、役員の負担増も見据えた中で立ち上げた組織検討会発足が印象に残っております。現役員、次期役員一同が組織を一度見直し、より良い組織にするために長期計画のもと実行されました。様々な賛否両論はありましたが、皆様のご協力により一定の理解を得られ進行できることを大変感謝しております。

このように、日々変化する組織活動、また経営状況において対応していくために青年部活動は非常に大切なものだと考えます。様々な経営形態の方が集っている青年部だからこそ、広い視野での打開策が模索できますし、それに伴った行動が自分自身を成長させ、かつ地域農業発展にも繋がっていくのではないかと思っているからです。

最後になりますが、部長という大役を無事終えられたのも、当時の役員をはじめ、盟友、事務局の支え、そして家族の理解があつたからこそだと思っております。この貴重な経験を、今後の経営や生活に生かし、農業発展に力を注ぎたいと思います。

きたみらい青年部が10周年を迎えること、今後益々のご発展と関係機関の皆様のご健勝をご祈念申し上げお祝いの言葉と致します。

青年部の誇りと柔軟な発想を

JA きたみらい青年部
平成25年度部長 荒 喜文



JAきたみらい青年部が10周年の節目を迎え、これまで諸先輩方がひとつひとつ積み上げてきた足跡を振り返り、改めて敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げる次第でございます。
現青年部員としてこの節目に立ち会うことができたことに大きな喜びを感じております。

また、この度、記念事業の一環として記念誌が発刊され、活動の足跡を刻むことは誠に意義深く、永く後世に引き継がれるものと確信しております。

私は青年部活動を通じて、人と人との関わり方や個人と組織のあり方、組織運営のあり方など、多くを学びながら成長してゆける拠り所が青年部の役割だと強く感じました。

青年部の盟友である期間は限られますが、組織活動を幹として新たな枝、葉ができるまで広がりをみせ、他の支部や他の市町村の盟友との様々な情報交換を得ることは、自分たちにとって有益なものが多く、小さな経験であっても何一つとして無駄なことは無いものだと自信しています。一人では出来ないことも仲間とならできることを学んだのが青年部活動であり、自分自身にとって有意義な時間であると、今改めて再認識しております。

これからも農業を取り巻く状況は変化が絶えないと思いますが、自分たちの生産のみならず国民の食を守る意識を持ち、青年部の誇りと柔軟な発想でこの時代を乗り切らなければなりません。そのためにも組織活動へ積極的に参加し、そこで得た仲間と切磋琢磨しながら、チャレンジ精神をもって未来を創造することが不可欠であり、青年部としての使命だと思います。

最後になりますが、いつの時代も青年部が現場の声を消費者に向け発信し、食を担う農業への理解を広げていくことが大切です。農業に対する誇りを次の世代へ受け継いでいくために、JAきたみらい青年部が一致結束し、地域のリーダー的役割を担い、益々発展していくことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

友情と絆を深める組織に

JA きたみらい女性部
連絡協議会会長 渡辺 茂子



JAきたみらい女性部設立10周年、誠におめでとうございます。さらに10年の節目に、歴史の積み重ねをまとめた記念誌発刊に対し、心よりお慶び申し上げます。

平成15年2月1日に、1市4町の8農協が広域合併することに伴い、私たち8農協の女性部も同様に将来の一本化を目指し、平成14年11月に準備委員会を設置。翌年の2月27日に、農村女性の新たな枠組みの再編成と、新たな意思統一を図るために地域の垣根を越え、創造性豊かな組織設立に向けたJAきたみらい女性部連絡協議会が設立されました。

8支部の活動実態、収支予算、部員数などの情報収集に努めましたが、「何から進めてよいのか?」というのが実態でした。JAの再編成が急速に進む中、平成14年に5JAの女性部が統一されたJA道央女性部の視察研修を役員11名で取り組みました。同女性部の役員皆さんと、部員構成や役員の任期、JA助成金の基準と配分方法、部員会費、会議構成などを中心にご助言や意見交換などを行い、「JAきたみらい女性部」誕生への道筋を描く、有意義な研修となりました。一本化によって各支部の活動衰退と部員の減少を避ける、魅力ある組織作りなどを大前提に、限られた時間内でしたが、役員会で慎重に協議を進めてきました。その結果、各支部の合意のもと翌年の3月3日、北見芸術文化ホールで122名の部員出席のもと「JAきたみらい女性部」の設立総会が開かれ、初代部長に選任された坂下恵子さんをはじめ、11名の役員皆さんにバトンタッチすることができました。このことは、準備委員会や連絡協議会役員の皆さんと600名あまりの部員の皆さん、そして事務局職員の皆さんのお力添えによって成し得たものであり、ここに改めて感謝申し上げます。

最後になりましたが、農で生きる女性(仲間)は、素晴らしい友情と絆を深める力があります。どんな困難にも果敢に立ち向かい、女性の力を発揮できる女性部であることを願い、お祝いの言葉とさせていただきます。

巡り合わせに感謝

JA きたみらい女性部
平成16年度部長 坂下 恵子



JAきたみらい女性部設立10周年、おめでとうございます。

これまでお力添えをいただいた方々、バトンを繋いでこられた部員、役員の皆様に心より感謝申し上げ、敬意を表します。平成15年2月にJAきたみらいの誕生に伴い、翌年3月3日に、部員数592名の大所帯の女性部が誕生しました。

旧8JAの女性部一本化に向けた準備委員会及び連絡協議会の会長を務めた渡辺茂子さんは、温厚で説得力のある会話で方向性を見出など、とても立派な先輩の後に、わずか24名の部員の支部からの私は、責任の大きさに心が押し潰されそうでした。

しかし、8つの列車は連結して走り出しました。

初年度の統一活動は、宝井琴桜氏を講師に招き、設立総会時の記念講演と位置付け、支部独自の活動を重視することにしました。

本部活動は6月上旬、本部役員視察を行い、お互いの顔と名前が一致しませんでしたが、同世代、同じ農業を営むお母さんたちですから、話の合わないはずもなく、すぐに溶け込み気持ちがとても楽になりました。その数日後、合併先輩のJA道央女性部の皆さんのが、研修で私たち女性部の訪問を機に意見交換を行いました。支部間で少しずつ「考え方には差がある」、大所帯になることで支部活動が衰退する心配がある反面、「活動の幅が広がる」などの意見が寄せられ、貴重な時間を持つことができました。

多種多様な活動を経て、部員の皆さんや役員の方々に支えていただきながら、何とか次の駅(次年度)に到着させることができました。最後の役員会で、役員皆さんは「いろいろと中身が分かって勉強になった」、「知らなかつた人とも友達になれて良かった」と、1年間を振り返ってくれました。そして何より、この様な巡り合わせに出会えたことを感謝したいと思います。

最後になりましたが、本部事務局の堀さんをはじめ、8支部事務局の皆さん本当にありがとうございました。さらに、JAきたみらい女性部が今後、益々発展されることを祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

記念の節目に思う

JA きたみらい女性部
平成17年度部長 五十嵐 真知子



この度、JAきたみらい女性部が設立10周年という節目の年を迎えたことに、心からお祝い申し上げます。

時の経つのは早いもので、旧8JAの女性部が1つになって活動を始めてから10年、「もう10年になったんだ!」と、とても嬉しい思います。これはJAをはじめとした関係機関のバックアップと、部員一人ひとりの前進する力が、現在の「JAきたみらい女性部」へとつながった証と言っても決して過言ではないと考えます。

私が部長を務めさせていただいた平成17年は、8支部の部員間交流を一刻も早く深めることが重要視されていたなか、7月に「8支部合同一泊研修」が初めて取り組まれました。参加いただいた170名の部員皆さんには、貸し切りバス5台に分乗し、一路十勝へと向かいました。「氷川きよしコンサート」の鑑賞、一堂に会した大懇親会での交流、森林内に設けられた「ニングルテラス」の散策、広い畑に咲き誇る「ファーム富田」のラベンダーで心を癒すなど、2日間という限られた時間内でしたが、部員間の交流と親睦によって意思疎通が図られたと思っています。

JAきたみらいの誕生前は、別々に活動していた組織が一つになって活動することは容易ではありませんでしたが、一步一步とということを心に刻み、やがて「一つの輪」になれるという思いで日々過ごしていましたように思います。活動を通して一緒に考え、一緒に悩み、一緒に笑った貴重な経験のなかで、掛けがえのない仲間もたくさんできることは、私にとって本当に良い経験をさせていただきましたと感謝申し上げます。

農村地域の高齢化や部員減少問題など、いろいろな課題が山積していますが、農業を営む女性の声を発信し、これからも一層、JAきたみらい女性部が発展し続けることを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

部員の結集力で不可能を可能に

JA きたみらい女性部
平成18年度部長 福井 幸子



JAきたみらい女性部設立10周年並びに記念誌の発刊にあたり、心よりお慶び申し上げます。

10年という長い道のりを、部員一人ひとりが協力し合って1年1年積み重ねてきたご努力に深く敬意を表するとともに、女性部活動に関わりを持てたことに改めて感謝申し上げます。

平成18年2月の女性部第2回通常総代会の席上で部長に選任された私は、副部長や理事・監事に選任された10名の役員皆さんとともに、部員が「参加して良かった」と感じていただける諸活動に取り組んできました。

収穫作業の繁忙期に行われたJAきたみらい合併3周年記念事業の「ふれあい農業祭」には、役員の積極的な応援をいただき、「揚げいも」の販売を行い、益金は道女性協が呼び掛けている「タイ、チエンマイ女性部」の募金に寄贈。一人でも多くの部員が参加できる日程を組んで開かれた料理講習会とフラワーアレンジ講習会の「8支部統一活動」、「JA全道女性大会」、「北見地区女性部研修大会」などの活動は、部員皆さんのご理解とご協力により、無事終えることができました。

各支部の支部長の皆さんも、自らではなく推されてのことだと思いますが、総代会前の役員会で部長という大役に指名された時、「私にはとても出来ない!」と消極的になりました。しかし一人の力では不可能なことも、大勢の力で可能になり、さらにその時々の巡り合わせで、組織の運びも活気ある楽しいものになっていると日を重ねるごとに痛感しました。是非、一人ひとりのアイディアを生かした楽しい活動の継続と、一人でも多くの方々の入部と、農業者同士の出会いで元気で明るい地域農業を支えあっていただきたいと願っています。「農協婦人部」が設立された頃に想いを馳せた時、戦後間もない厳しい生活環境のなかから今日に至る60年あまり、名称が「女性部」に変わり、豊かすぎての問題も多く抱えるなかで今を思うと、たくさんのご縁と一期一会に感謝です。

最後になりましたが、JAきたみらい女性部が節目の10周年を機に、さらなるご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

新たな歴史のスタート

JA きたみらい女性部
平成19年度部長 清井 久美子



JAきたみらい女性部設立10周年と10年の歩みを記した記念誌の発刊、心よりお祝い申し上げます。私は平成19年度に、部長職を預かりました。前年は、支部長として本部役員として活動した際、他役員の皆さんに家庭の諸事情でご迷惑を掛けながらの1年でした。部長という責任ある立場で、正常な判断ができるのだろうかと不安でした。父のうつ病、母の認知症に心労も重なってきたなかで、本部役員会や研修大会などに出ることでストレスも発散出来て、後から思えば最高の場所と機会をいただきました。

当女性部の本部役員体制から、オホーツク女性協の役員に副部長を派遣することが決議されたのもこの年で、ホッとしたりドキしたり、内心気が気ではありませんでした。「凛として生きる！」一生の目標です。

平成19年4月に開かれたJAきたみらい第4回通常総代会席上で、任期満了に伴い、役員を退任する今は亡き高橋俊一組合長に、花束を贈呈出来たのも印象深く心に残っています。

現在は一人の部員として、支部や本部活動に参加させていただいているが、部員減少に悩む役員皆さんに歯止め策を考えると同時に、女性部の魅力を伝えながら勧誘活動を行っている姿に、心温まるものを感じます。

また今年の1月末に開かれたオホーツクJA女性部大会・家の光大会のアトラクションに参加する支部の皆さん、農作業の合間にみて行う踊りの練習、あるいは衣装を作ったりの日々に、団結力や協調性が高まっているのも事実です。小さな積み重ねによって、きっと「今度から参加しよう！」、「女性部に入ってみよう！」と感じさせる集いが広がっていくのではないかでしょうか。

最後になりましたが、10年の節目を糧に、JAきたみらい女性部が益々ご発展され、素晴らしい歴史が刻み込まれることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

魅力ある活動の展開

JA きたみらい女性部
平成20年度部長 戸田 富美子



JAきたみらい女性部設立10周年並びに記念誌の発刊、心よりお慶び申し上げると共に、改めて10年の年月の早さに驚いている次第です。

平成20年度に部長という大役を務めさせていただき、役員及び部員の皆さん、さらに事務局や関係機関など多くの皆様に支えられながら活動を進めて来ましたが、10年という輝かしい節目を迎え、女性部員の一人として嬉しく思っています。

当時振り返ると、2つの活動が印象深く残っています。1つは、JA合併5周年を記念した「第2回ふれあい農業祭」に参画し、「揚げ芋」と「じゃがバター」のコーナーを設け、会場に訪れた多くの地域住民の皆さんに農業をアピールしました。少し肌寒さを感じた当日は、温かい食べ物が大人気で、次から次へと揚げても売り切れ状態。長時間、足を棒にして辛い部分もありましたが、とても充実した気持ちに浸りました。

もう1つは、193名の部員が参加して開かれた8支部統一活動「部員研修会」です。午前中はタマネギや白花豆、ペコロス、ニンジンなど地場産の食材を生かした「料理講習会」。会場の大型スクリーンに、映し出されたプロのシェフの鮮やかな調理に見とれながら、ポイントを熱心に記録していました。本研修会にあたっては、前日の仕込みや準備作業にご足労いただいた本部役員と支部役員の協力、そして何よりも多くの部員の参加協力に改めて厚くお礼申し上げます。

私たちは、自然を相手に「天の恵み」と「地の恩」、「人の努力」によって農業を営む職業ですが、このことに「生命を育てる一次産業」と自信と誇りを持っても良いのではないでしょか。次世代の担い手に農業を継続していくうえで、女性部活動も重要な意味を持っていると思います。

最後になりましたが、今後とも魅力ある女性部活動の展開と部員皆様のご健康をご祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

強い絆で更なる飛躍

JA きたみらい女性部
平成21年度部長 吉田 和子



JAきたみらい女性部が輝かしい設立10周年を迎えたことに、心からお祝い申し上げます。また、旧8JA女性部の一本化に向け、基礎作りにご努力いただきました連絡協議会の役員皆様、さらに今日まで、女性部発展などにご尽力された歴代役員をはじめとした部員皆様に深く感謝申し上げます。

平成21年度に私は、400名あまりの部員で構成されている本女性部の部長を担当させていただき、数々の思い出が浮かび上がります。

バス4台に分乗して行われた8支部合同一泊研修。一曲一曲の歌唱力に魅了された美輪明宏さんの公演、部員一堂に会した懇親会などで、当初目的の部員間交流と親睦を図ることができました。

他JA女性部員のパワーに終始圧倒された東北・北海道地区JA女性組織リーダー研修会。初めて取り組まれたJAきたみらい外郭三組織の合同研修では、「報徳の教えと助け合い」「食農教育」「直売所」などを学びました。さらにJA千葉みらいの女性理事とも懇談し、女性の声がJA事業などに反映されていることに驚きました。

このように組織は、私たちに貴重な勉強と多くの体験を得る機会を与えてくれました。1年間の任期でしたが、多くの仲間同士の強いつながりのなかで受けた友情や関係者のご指導の賜物は、いつまでも忘ることはできません。私が無事、部長を終えられたのも、2人の副部長をはじめとした役員皆さんと事務局、そして地域の皆さんとの理解と手助けによるものです。貴重な誌面をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

最後になりましたが、JAや各関係機関のご指導を賜りながら、強い絆をもってJAきたみらい女性部が今後、更なる飛躍を遂げられますことをご祈念し、お祝いの言葉と致します。

仲間意識が強まった1年

JA きたみらい女性部
平成22年度部長 貝沼 輝美



この度のJAきたみらい女性部設立10周年と、一つの節目を機会に10年の歩みを纏めた記念誌発刊にあたり、心よりお慶び申し上げます。

私が女性部長をさせていただいた平成22年度は、「ゲリラ豪雨」や「口蹄疫」、さらに突如、政府が表明した「TPP（環太平洋経済連携協定）参加」問題など、農家にとっては大変な年でしたが、仲間意識を一層強めてくれた1年でした。

そのようななか、本部活動の8支部統一活動では、宮本クッキング校長の宮本和彦さんを講師に迎え、きたみらい産食材の魅力を伝える「家の光クッキングフェスタ」を開催しました。

前日の仕込み作業や当日の調理など本・支部役員25名によって、6品の創作料理を作り上げ、部員や北見商工会女性会、小学生、各関係機関の方々に召し上がっていただきました。また当日は、当JAの青年部、フレッシュユミズ本部役員の皆さんにもご協力いただき、外郭三組織の絆を一層強める事業となりました。

JA常勤役員との意見交換会も初めて行い、外郭組織の現状や課題などを伝えると同時に、JAが私たち組織に望む案件について様々な角度から意見を述べ合い、とても有意義な会となりました。

以上のように特筆する活動を記しましたが、その他活動においても部員皆さんのご協力、さらにJAや普及センターなど関係諸団体のご支援、ご協力により、女性部活動を終えたことに改めて感謝とお礼を申し上げます。

農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありますが、女性の強い絆と連帯によって、JAきたみらい女性部が益々のご活躍とご発展をご祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

理解しあえる仲間と共に

JA きたみらい女性部
平成23年度部長 上原 由紀子

JAきたみらい女性部が設立10周年を迎えたことを、心よりお慶び申し上げます。平成23年は、東日本大震災、福島の原発事故と未曾有の災害や当地域においての降雪、集中豪雨など自然の猛威を目の当たりにし、厳しさを痛感させられました。

女性部においては、部員減少のなかでの役員選出の難しさ、また活動における負担増の問題などを抱え「組織検討会」を設置しました。最初はこの言葉に「自分たちの支部がなくなるのでは」という不安もあり、課題に対する意識の共有には時間がかかりました。

このような戸惑いのなか、初めての支部間交流活動が行われ、スポーツ交流や視察研修など現在に至っています。8支部統一活動は、合同一泊研修を実施し、177名の部員参加のもと1日目は、劇団四季の「ライオンキング」鑑賞と「あぐり王国北海道」メインキャスター・森崎博之さんの講演。2日目は4コースに分かれ、支部単位ではなく部員一人ひとりが選択する形を試みました。参加者が一堂に会したのは夜の懇親会だけでしたが、おいしい料理やゲームで盛り上がり、より一層の交流を図ることができました。

また、この年度は、役員の負担軽減を目的に、今までの「支部総会」が「活動報告会」に変わり、来賓の案内を廃止し、部員のみで年一度の懇談の場として行なわれました。

1年間、無力ながらも部長として部員皆様の力強いご協力と、事務局の支えをいただき活動できましたことを心より感謝しております。私たちは、農業を通して、理解しあえる仲間と共に楽しく活動できる場所があります。この素晴らしいを次世代につなげて行くためにJA女性部がさらに絆を強め、益々ご発展されますようご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。



10周年おめでとう

JA きたみらいフレッシュミズ
連絡協議会会長 寺崎 淳子

JAきたみらいフレッシュミズが、記念すべき設立10周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

常呂ブロック8JAが広域合併を行い、平成15年2月1日に新JAの誕生により、私たち旧8JAのフレッシュミズも将来の一本化を目指し、平成14年11月の準備委員会発足から、翌年の2月24日に方向性を見出す連絡協議会へと移行されました。私は、準備委員会の委員と連絡協議会の会長を務めさせていただきました。連絡協議会の役割は、農村女性の新たな枠組みの再編成と新たな意思統一を図るために地域の垣根を越え、創造性豊かな組織作りでしたが、当初は「何からやつたらいいの?」といった状態でした。

このようななか、北見地域と作付け形態が類似し、平成15年4月に誕生したJAふらの女性部を視察し、設立経過や収支予算、活動計画などの説明を受けたあと、組織確立に向けた素直な意見交換を行うなど、有意義な研修となりました。

組織の規約(案)を作り上げるなかで、一番苦慮したのは役員(会長)の選任方法でした。誰しもが「責任が重い、会長職だけは避けたい」というのが、いつの時代も同じだと考えます。しかし、組織を形成していくうえで、リーダー確立は避けて通れないもので、その重要性と選任方法(案)を220名あまりの会員皆さんに、理解していただくのに時間を要しました。その結果、翌年の2月24日に207名の会員が出席して、「JAきたみらいフレッシュミズ」設立総会を開催し、すべての提出議案が全会一致で承認され、胸を撫で下ろしたことを今でも鮮明に覚えています。それから早10年の年月が流れ、節目の10周年を迎えたことに、人一倍喜んでいる一人です。

農業を営む農村女性が楽しく集まる組織は、「フレッシュミズ」と確信しています。是非、今後も益々ご発展されることを願い、お祝いの言葉と致します。



頑張る仲間の存在を励みに

JA きたみらいフレッシュミズ
平成16年度会長 萬城 一葉

JAきたみらいフレッシュミズ設立10周年おめでとうございます。

旧8農協の広域合併に戸惑いと不安を抱きながら、平成16年2月のJAきたみらいフレッシュミズ設立総会の席上で会長に選任されました。副会長2名をはじめとした役員皆さんとの支えと、事務局の堀さんに導かれてながら何とか1年の大役を務めることができました。

今振り返ると、全道各地で活動されているバイタリティー溢れる“農家の嫁さん”皆さんと交流出来たことが、とても印象に残っています。

特に思い出深いのは、オホーツク管内のフレッシュミズ交流会で、全会員対象に実施したアンケート調査です。

網走や紋別、佐呂間、東藻琴など今まで交流がなかった地域の仲間たちが、仕事や生活に対する悩みや不満などを率直に出し合うなかで、自らの生活をよりよいものに改善したいというエネルギーが渦巻いていました。同時に、家族一人ひとりの思いを反映させた「家族経営協定」を結ぶことによって、家庭や仕事におけるそれぞれの役割を明確にし、労働条件を必要に応じて改善することで、気持ち良く生活を送ることができる学びました。

自分の知らない土地で、自分と共に喜怒哀樂を感じながら仕事をがんばっている仲間の存在は、私にとって大きな励みとなりました。

私は今、女性部の一員として活動に参加していますが、毎年部員の減少傾向には胸が痛みます。これから先の10年を展望したとき、女性部のみならず、農家戸数の減少に歯止めがかかっているのでしょうか……。TPP問題や規制改革会議による農協を解体するような農業改革など、私たちの未来にとって心配な問題が山積みしていますが、1戸1戸の農家が安心して農業を続けられるために存在する、そんな農協組織であって欲しいと心から願っています。



前向きな考え方聞き心に変化

JA きたみらいフレッシュユミズ

平成17年度会長 平野 美香子

JAきたみらいフレッシュユミズの設立10周年、並びに記念誌の発刊にあたり心よりお慶び申し上げます。

「10年ひと昔」とも言われているなか、組織の歴史を積み重ねてきた歴代役員と会員の皆様に改めて敬意と感謝を申し上げます。

平成17年2月の総代会の席上で、会長に選任されました。「誰かが引き受けなければ」と認識はしていましたが、後先のことを考えずに受けた記憶があります。総代会も終え、家路を急ぐ頭の中は「大変な役を受けた。大丈夫だろうか?」という不安ばかりが浮かんできました。

第1回役員会が3月末に開かれ、活動計画や予算の再確認、さらに直近の活動をどのように進めて行くかなどを協議しました。そのなかで、役員皆さんの前向きな考え方聞き、今までの不安から「大丈夫! やつていい」と、私の気持ちに変化を与えてくれました。

農作業が始まると会議はいつも夜でしたが、全員が出席してくれました。その甲斐あって「役員視察研修」、8支部統一活動の「会員研修会」、北見管内及び全道につながる各研修会において、「楽しかった!」「良かった!」などの声を得たなかで、すべての事業を終えることができました。

これもひとえに役員をはじめ会員皆さん、さらに事務局など大勢の方々の支えとご協力によるものと感謝しています。

いま思えば1年という短い時間での経験は、9年を経た今も私にとって「貴重な宝物」となっています。

農業を取り巻く環境は年々厳しさを増していますが、10年の節目をステップに、JAきたみらいフレッシュユミズが益々ご発展されることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。



たくさんの仲間に恵まれ

JA きたみらいフレッシュユミズ

平成19年度会長 本條 幸恵

この度は、JAきたみらいフレッシュユミズ設立10周年、併せて記念誌発刊にあたり心よりお祝い申し上げます。この10年の間に、フレミズ活動に参加できたこと大変嬉しいと思っています。

平成19年2月に会長職を引き受けた当時、不安でいっぱいだったことを日々思い出します。まだ子どもも小さく、農作業にもあまり携わっていなかったため、会員の皆様に迷惑を掛けるのではないかと思っていました。

一緒に本部役員となった方々や、各種活動に参加してくれた会員の皆さん、そしてしっかりサポートしてくれた事務局の力添えで、1年間無事に終えることができました。翌年2月に開かれた総代会席上で「安堵感たっぷりの挨拶をしていた」と、後に皆さんに笑われたのも今となっては良い思い出です。

JAきたみらいの外郭組織として、北見地区や全道でのフレミズ活動に積極的に参加していくことは、とても大切だと思います。

興味や意欲のある方には今後もどんどん参加して欲しいと思います。また一方で、農業後継者と結婚した女性の方々が地域で孤立せずに、地域に溶け込めるように、フレミズが機能し続けることも心から願っております。

最後に、フレミズ活動を通して、たくさんの仲間に恵まれたことに感謝し、JAきたみらいフレッシュユミズが益々ご発展されることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。



更なる飛躍を願って

JA きたみらいフレッシュユミズ

平成18年度会長 小林 としみ

JAきたみらいフレッシュユミズの会員の皆さん、設立10周年と併せて記念誌の発刊、本当におめでとうございます。

平成15年のJAきたみらい発足に伴い、旧8JAのフレミズの一本化に向けた連絡協議会設立から、1年1年の足跡を築いてこられた歴代役員と会員の皆様のご努力に深く敬意を表します。

私は、平成18年度に会長の職を務めさせていただきましたが、まさか自分が「責任のある立場」になるとは思いもせず、不安ばかりが頭の中をよぎっていました。しかし、第1回役員会の雰囲気の良さを感じて、やっと「1年間頑張らなきゃ!」という気持ちになりました。

本部組織活動のなかで、特に印象深く残っているのは、JAきたみらい合併3周年記念の「ふれあい農業祭」と「8支部合同会員研修会」です。農業祭は、JAとフレミズをアピール出来ることから参加支援することとなりました。当日は、「ヨーヨーフリ」と「カキ氷」の販売に取り組み、来場した子どもたちに喜んでいただいたのと同時に、私たち役員も楽しんで参加でき、より一層団結が深まつたと確信しました。本当に役員同士仲が良く、今でも交流を続けています。

また、JA北見地区女性協議会のフレミズ役員として、慣れない会議や場所にも緊張しましたが、いろいろな地区の人と出会い、活動をするなかで刺激になり、励みになりました。

頼りない会長でしたが、会員、役員、事務局の皆様の助けとご協力のおかげで1年間務めることができ、本当に感謝しています。

ありがとうございました。

10周年を契機にJAきたみらいフレッシュユミズが更なる飛躍と発展をご期待申し上げ、お祝いの言葉と致します



組織活動を楽しもう

JA きたみらいフレッシュユミズ

平成20年度会長 西若 かおり

JAきたみらいフレッシュユミズの設立10周年、併せて1年1年と積み重ねてきた形跡を記した記念誌発刊にあたり、心よりお祝い申し上げますとともに関係者各位に改めて敬意を表します。

私は平成20年の第4回通常総代会において会長に選任され、その就任挨拶で「役員の皆さんと意見を出し合って、『楽しかったよ!』『勉強になったよ!』『友だちが増えたよ!』と言われる活動に取り組みたい」と言ったものの、内心は不安がいっぱいでした。でも関西出身の私は「何とかなるやろ~」と気持ちを切り替え、1年間の職責を全うしようと考えました。

春の繁忙期前に開かれた第1回役員会は総代会以来の顔合わせでした。総代会で決定された活動計画などを協議して行なうことで、前向きな姿勢で意見を述べる役員皆さんに圧倒されながらも、その姿を見て、「1年間、スムーズにやっていくのでは」と感じました。「やっていいのでは?」から「やっていい!」と確信したのは、役員全員による札幌方面への視察研修でした。飾ることなく本音で語り合った2日間で信頼関係が深まり、JA合併5周年を記念した「ふれあい農業祭」、全会員を対象にした「会員研修会」、「オホーツク女性協フレミズ研修会」など有意義に終えることができました。この場をお借りして、当時の役員と会員の皆さん、そして事務局の皆さんに厚くお礼申し上げます。

年々、会員数の減少が続いていると伺い、残念に思っています。育児、家事、農作業の三役をこなす私たちが、同じ立場で辛いことや楽しいことを話せる場がフレッシュユミズ組織だと思います。役員になれば様々な負担や慣れない場所での発言や挨拶は、「嫌いだなあ」と感じましたが、1年の任務を終えた時の充実感は計り知れないものがありますので、多くの会員が積極的に参加し、組織活動を楽しみましょう!

最後になりましたが、10年の節目を機にさらなる発展を祈念し、お祝いの言葉と致します。



気持ちを共有できる出会いの場

JA きたみらいフレッシュミズ
平成21年度会長 下田 裕美子



JAきたみらいフレッシュミズが設立10周年を迎えるにあたり、心からお慶び申し上げます。平成21年度の会長を務めさせていただいた私は、子育ての真っ最中でした。その時の心境は、支部長の立場と違って会員皆さんの一歩先を行く緊張感と、訓子府地域以外の会員と出会える「ドキドキ・ワクワク」した気持ちが入り混じり、とても複雑だったことを覚えています。しかし、いざ会長としての1年が始まると、「今までのフレミズ活動から一歩進んだ何かをしたい」「フレミズだからこそ、できることをやってみたい」と思うようになりました。その思いを形にしたのが8支部合同会員研修の「ミニ運動会＆懇親会」でした。それまでの同研修は物作り体験や健康体操でしたが、運動会は支部にこだわることのないチーム編成で、自然に会話が生まれ、一緒に笑い合えます。本部役員会や三役会議でも多くの時間をかけて計画してきたので、無事終えたあとの達成感は格別なものでした。また、馬鈴薯振興会の道外販売推進にフレミズ会員も同行できる体制も構築され、フレミズ（主婦）ならではの目線で販促活動や市場関係者の懇談会にも同席させていただきました。両活動とも現在も継続され、会員皆さんの楽しい思い出が増えていると考えると、とても嬉しい気持ちになります。

任期が終わる頃には、「1年では足りない!もっといろいろなことがしたい」と思えるほど充実した経験を得ることが出来ました。これは一緒に頭を抱え、悩みを共有してくれた本部役員と事務局のお力添えによるものです。そして、この地に嫁いできた立場として、同じ気持ちを共有できる仲間がたくさんできたことが、何よりも大切な宝物です。会員の皆さん、子育てに仕事に家事に、日々忙しいとは思いますが、活動を理解し、送り出してくれる家族に感謝を忘れず、今しかできないことをいっぱい楽しんでください。

最後になりますが、フレミズ組織が10年の節目をステップに益々のご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

若さと行動力で活発な組織に

JA きたみらいフレッシュミズ
平成22年度会長 吉田 美穂



JAきたみらいフレッシュミズ設立10周年、誠におめでとうございます。また、JA役職員をはじめとした農業関係者皆様には、日頃より大変お世話になり本当にありがとうございます。

私がフレミズの会長を務めてから早3年が経とうとしてあります。晩婚だったこともあり、あまり物怖じすることもなく、端野支部の支部長を引き受けた時と同じ気持ちでしたが、そのことがきっかけで私の人間関係や世界観は大きく広がっていました。その後、オホーツク女性協下部組織のフレミズ部会長、北海道の副会長を務めさせていただき、大勢の仲間たちとの出会いや様々な活動を通じ、いろいろな経験を得ることができ、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

1年間の活動のなかで、強く印象に残っているのは外郭三組織合同の視察研修です。青年部、女性部、フレミズ代表者での行動はすべてが新鮮に感じ、機会があれば「また会ってみたい」皆さんです。本活動が今も続いていることはとても嬉しく、JAきたみらいの手厚い支援に感謝しています。この活動を通じて築かれた絆をもとに、三組織で力を結束して違った何かのアクションを起こしたら「すごいだろうな～」と思っています。

北海道のフレミズ部会の最終会議が札幌市で開催された当日が、あの東日本大震災。JAビルの19階で恐い思いをしたことが今でも忘れられません。そして今、「生かされているな」と実感し、その経験を無とせず、これから的人生で生かせられたらと考えています。

夫が農業を営んでいるという同じキーワードで結ばれたたくさんのかけがえのない仲間や友人ができ、本組織をはじめ、それ以外の地区、地域に関係なく広がり、現在も交流を深めていることは本当に私の財産です。

役員を経験して、各組織が役員を中心に頑張り、元気でパワフルに前進する姿は素敵だと感じました。もちろん、JAきたみらいフレッシュミズの会員さんは、家業の農業に従事しながらの活動となります、若さと行動力を前面に出し、より活発な組織になられることを祈念申し上げます。

女性の発想や活力などで更なる発展を

JA きたみらいフレッシュミズ
平成23年度会長 森谷 裕美



JAきたみらいフレッシュミズ設立10周年を迎えたことを心からお祝い申し上げます。

平成22年度に、温根湯支部の支部長として私が本部役員会議に出席していた時期は、JAきたみらいの第3次中期経営計画（～融合してひとつに解け合う～）の真っ只中でした。明確な青写真がないままの何処に進んでよいのか分からなくなっていた状態で、前役員の皆さんには、大変ご苦労された年でした。

外郭組織の青年部や女性部、生産組織を参考に垣根を越えた活動を行い、さらに組織の将来を見据えた「組織検討委員会」を立ち上げ、支部長は支部の意見集約にご尽力いただきました。

新年度に向けた役員改選では、なかなか会長が決まりません、投票で私に決まった時には、「会員が望む組織を形成できるのか」という不安ばかりが脳裏をかすめました。しかし、副会長、各支部長、事務局の支えと家族の理解、さらに若いフレミズ会員、豊富な社会経験を持つ仲間の話を聞き、「なるほど」「そうだよね」と前向きの考えにより、楽しい1年を過ごすことができました。役員を終えた今でも時々集まり、お酒を酌み交わす一生の仲間を得られたことは、とても嬉しく思っています。

21年度から恒例となった8支部合同運動会、支部内活動の充実に努めながら、垣根を越えた2支部の視察研修などによって、他支部の会員皆さんの顔と名前を覚え、会話も自然と弾むようになりました。

設立当初からみますと、会員数も減少している状況ですが、本組織が存続し、今後、新たに組織に加入する多くの方々が、スムーズに地域に慣れ親しみ、仲間ができるようになればと願います。

女性の社会進出促進が政府の成長戦略に位置付けられ、農業の現場、農村の活性化などで女性の活躍が期待されるなか、そのための家族の理解促進、環境づくりがとても重要です。女性の知恵、視点、発想、活力でJAきたみらいフレッシュミズの更なる発展を続けられるよう、心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

たくさんの仲間との出会いに感謝

JA きたみらいフレッシュミズ
平成24年度会長 菅野あけみ



JAきたみらいフレッシュミズ設立10周年、誠におめでとうございます。

歴代会長や役員の皆様のご尽力のもと、10年という長い道のりを歩いて来た歴史ある組織の一員であることを、心から嬉しく思います。

私は平成24年度に会長を務めさせていただきました。きっと、会長という大役を引き受けた場合、多くの方は不安が先行すると思います。しかし私は新しい役員の皆さんとの出会いや、本部行事のことを想像すると不安よりも期待の方が大きく、ウキウキして家に帰ったことを今でも覚えています。

そんな風に楽しいことばかり想像していた私は、実際にはなかなか役員会での意見をまとめられず、「なんとかなるかな～」と甘く考えていたため行事での挨拶もなかなか上手くいきませんでした。自分でも情けなくて申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、副会長の村上郁恵さん、黒須美保さん、事務局の小野寺さんの支えのお陰で、1年間の任期を終えることが出来ました。頼りない会長でしたが、お酒を交えながら皆さんとおしゃべりしている時間は、とても楽しかったです。

私はフレミズに加入して、15年が経ちました。遠く宮城から嫁いできた私の寂しい気持ちを埋めてくれたのは、フレミズの仲間でした。

8JAが合併しJAきたみらいとなり、役員を経験したことでさらに幅広い地域で一緒に笑い合える仲間が出来ました。フレッシュとは言えなくなってしまった私ですが、もう少しフレミズとして仲間との楽しい時間を過ごしたいなと思っています。

最後になりますが、私に仲間というかけがえのない財産を与えてくれたフレッシュミズに感謝し、これからも「農家の嫁さんのお嬢の場」であり続けることを期待し、フレッシュミズの更なる発展と飛躍をご祈念申し上げます。